

# 平成28年度決算見込みの概要



高松市

# I. 平成28年度会計別決算概況

※以下、四捨五入の関係上、各表間の計数、増減率が合わない場合がある。

(単位：億円)

区 分	一般会計	特別会計
歳入総額 (A)	1,700	1,113
歳出総額 (B)	1,640	1,095
差引残額 (形式収支) (C) = (A) - (B)	61	18
翌年度への繰越財源 (D)	23	0
実質収支 (E) = (C) - (D)	38	17

## 一般会計決算の特徴

決算規模は、歳入・歳出ともに過去最大規模  
(歳入・歳出ともに4年連続増)  
【参考】 H27：歳入 約1,634億円  
歳出 約1,568億円

実質収支は、約38億円の黒字  
【参考】 H27：約49億円、H26：約38億円  
単年度収支は、約12億円の赤字

プライマリーバランスは、約8億円の赤字 (13年ぶりの赤字)  
【参考】 H27：約35億円、H26：約34億円

市債残高 (臨時財政対策債を除く) は、前年度末に比べ約54億円増 (2年連続増)

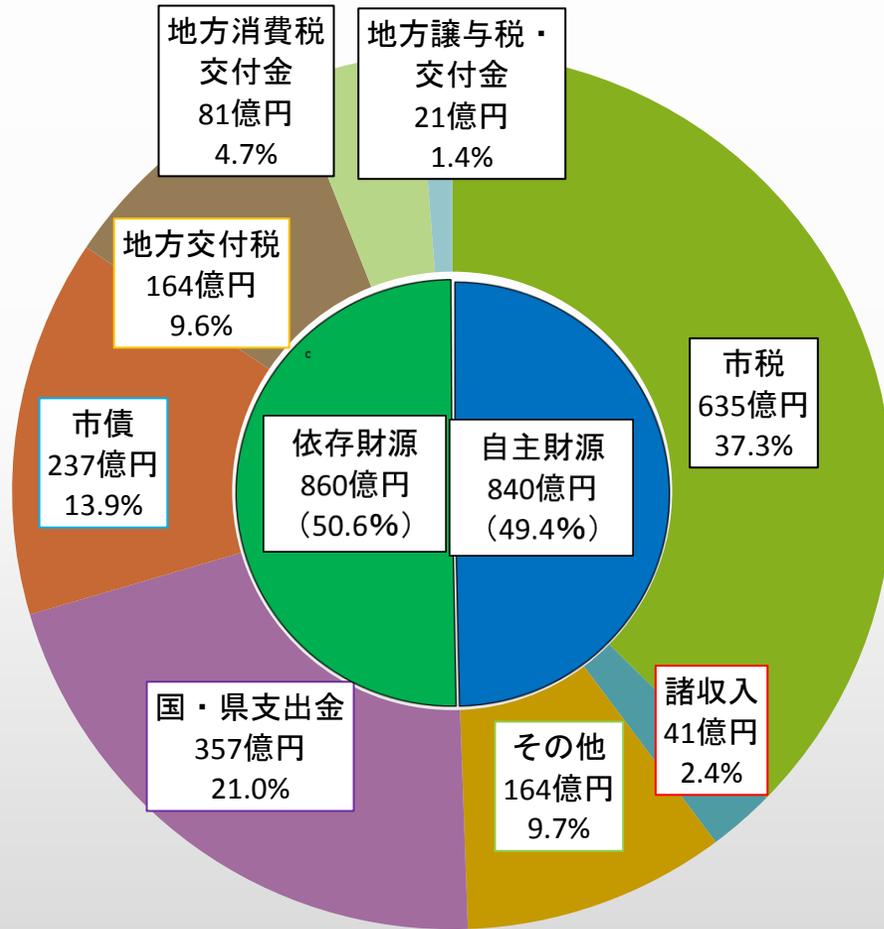
財源対策基金残高は、前年度末に比べ約29億円減

経常収支比率は、前年度に比べ2.0ポイント増加

実質公債費比率は、前年度に比べ0.2ポイント改善

# Ⅱ. 歳入（款別）

総額：1,700億円

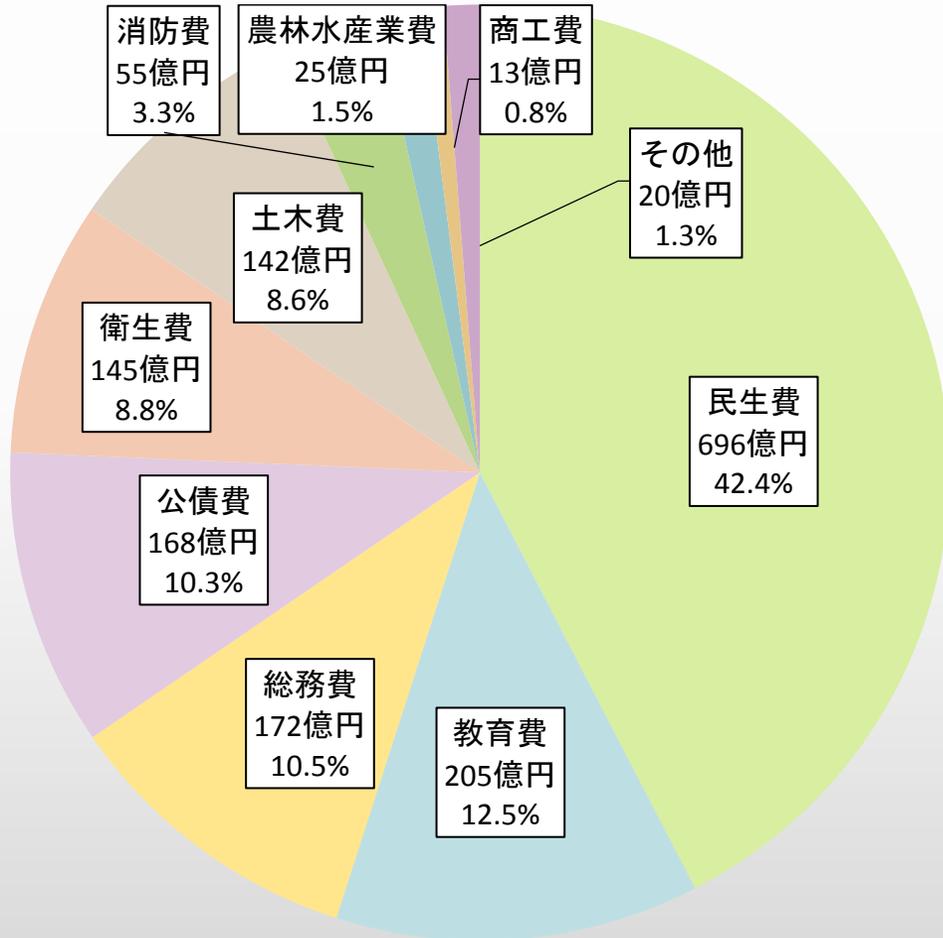


## 主な増減

区分 (前年度比)	理由
地方消費税交付金 (▲8億円, ▲9.5%)	消費税率引上げの影響の平年度化などによる交付額 (▲8.4億円) の減
地方交付税 (▲8億円, ▲4.8%)	地方消費税交付金等の基準財政収入額の増による普 通交付税 (▲7.3億円) の減など
国庫支出金 (+18億円, +7.5%)	臨時福祉給付金給付費補助金 (+11.4億円)、西部 クリーンセンター大規模改修事業費補助金 (+3.5 億円) の増など
繰入金 (+24億円, +56.1%)	財政調整基金繰入金 (+10.0億円)、施設整備基金 繰入金 (+10.0億円) の増など
市債 (+41億円, +20.9%)	こども未来館等整備事業債 (+33.8億円)、屋島陸 上競技場整備事業債 (+30.9億円) の増、美術館整 備債 (▲15.6億円) の減など

# Ⅲ. 歳出（目的別）

総額：1,640億円

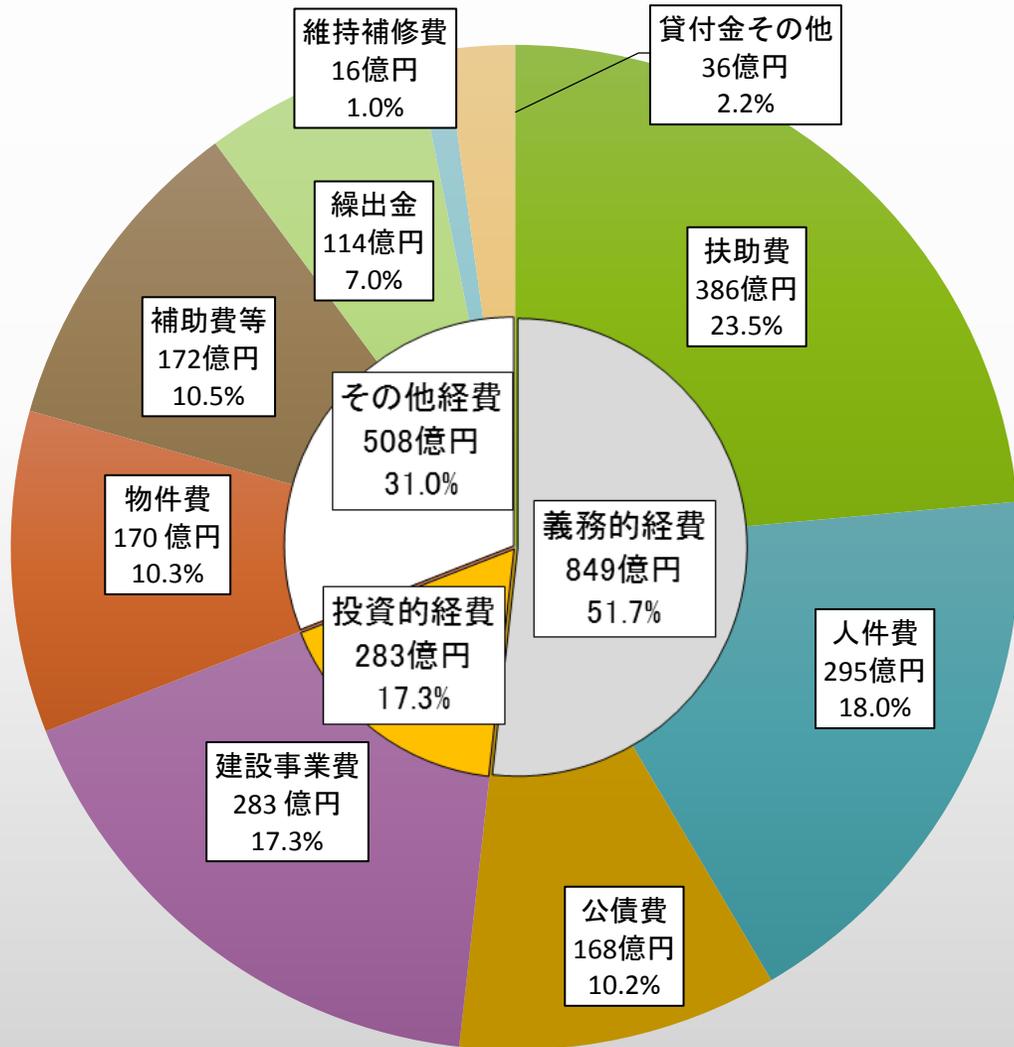


## 主な増減

区分 (前年度比)	理由
民生費 (+54億円, +8.5%)	臨時福祉給付金給付費 (+10.8億円)、こども未来館等整備事業費 (+35.6億円) の増など
商工費 (▲11億円, ▲45.7%)	プレミアム付き商品券事業費 (▲6.2億円)、企業誘致推進費 (▲1.0億円) の減など
土木費 (+11億円, +8.6%)	橋りょう新設改良国庫補助事業費 (+1.8億円)、上之町団地住宅建設事業費 (+7.8億円) の増など
公債費 (+4億円, +2.4%)	元金償還金 (+5.7億円)、市債利子 (▲1.8億円) など
諸支出金 (+8億円, 皆増)	病院事業会計貸付金 (+7.8億円) の増など

# IV. 歳出 (性質別)

総額：1,640億円



## 主な増減

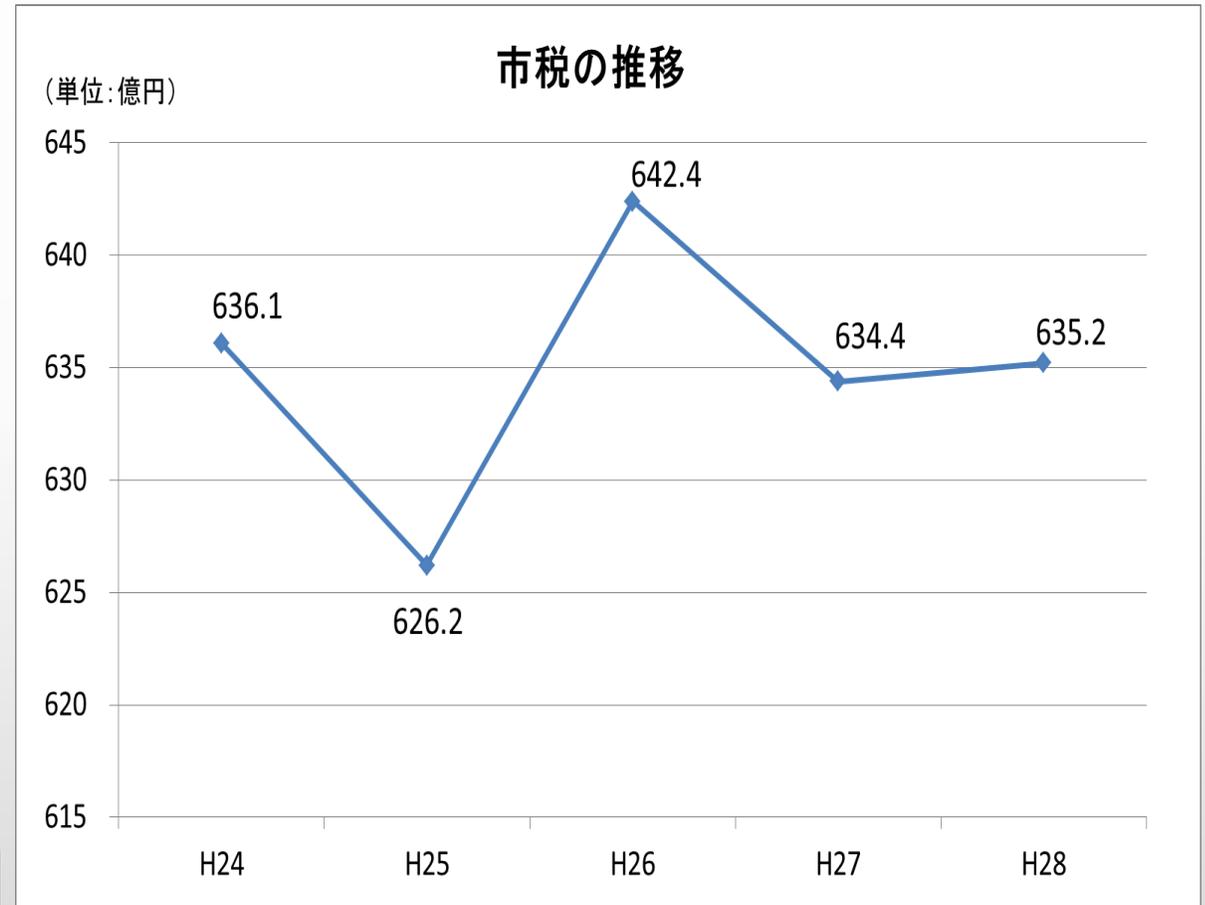
区分 (前年度比)	理由
人件費 (▲5億円, ▲1.6%)	退職手当 (▲6.5億円) の減など
建設事業費 (+60億円, +26.9%)	こども未来館等整備事業費 (+35.6億円)、屋島陸上競技場整備費 (+33.1億円) の増、美術館整備費 (▲16.8億円) の減など
積立金 (+14億円, +899.1%)	施設整備基金積立金 (+6.9億円)、福祉の充実と教育力向上のための臨時基金 (+8.0億円) への積立の増など
貸付金 (+7億円, +195.5%)	病院事業会計貸付金 (+7.8億円)、高松市土地開発公社事業資金貸付金 (+0.2億円) の増など
繰出金 (▲6億円, ▲4.9%)	国民健康保険事業特別会計繰出金 (▲6.2億円) の減など

# V. 市税の内訳及び推移

市税は、税制改正により法人市民税が減少傾向にあるものの、個人市民税や固定資産税（家屋）の増などにより、前年度比で約0.8億円の微増（0.1%）となっている。

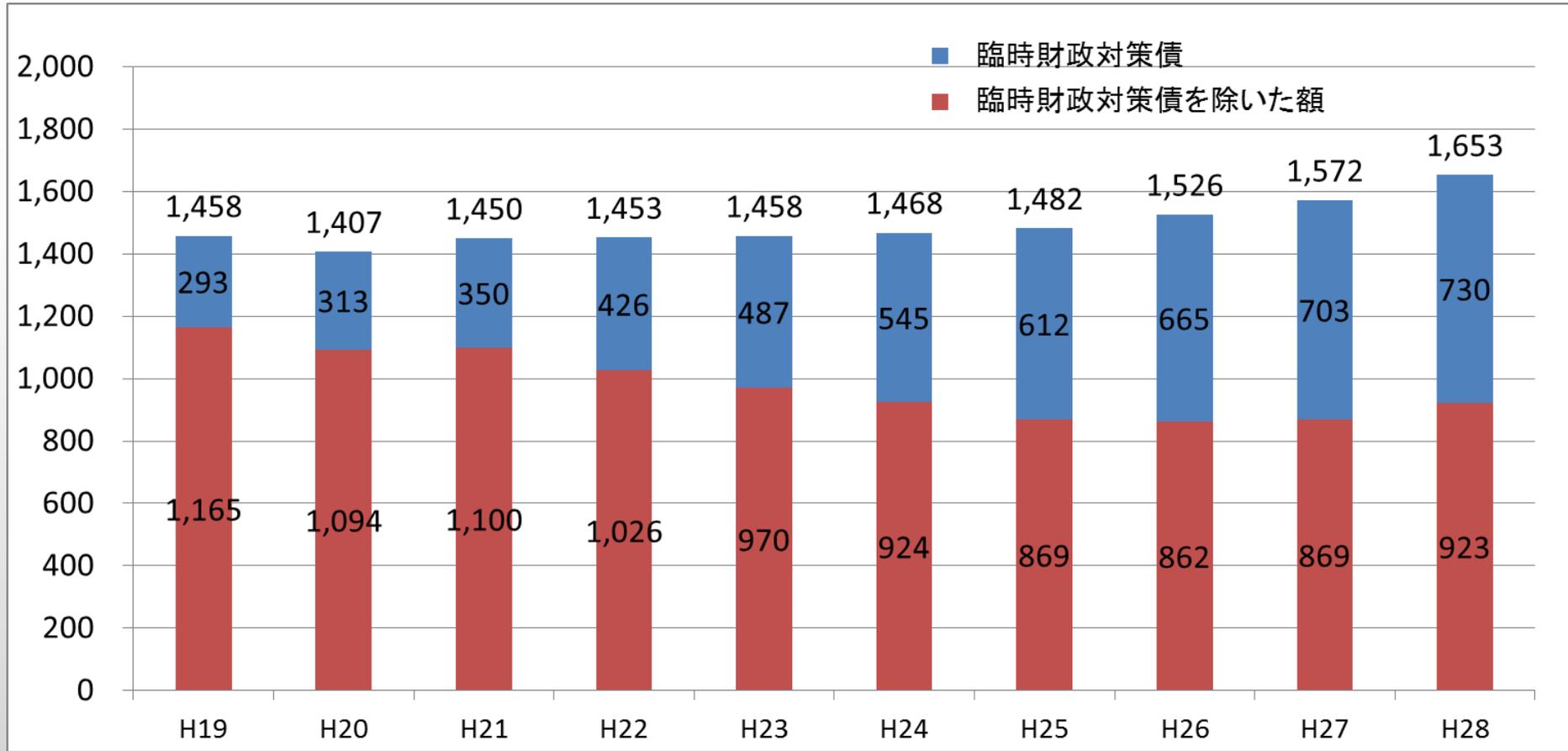
(億円)

税目	H28決算額	H27決算額	増減額	増減率
個人市民税	235.1	230.6	4.5	2.0%
法人市民税	85.4	93.8	▲8.5	▲9.0%
<b>市民税計</b>	<b>320.5</b>	<b>324.4</b>	<b>▲3.9</b>	<b>▲1.2%</b>
固定資産税	252.7	248.9	3.7	1.5%
軽自動車税	10.0	8.4	1.6	18.4%
市たばこ税	30.3	31.1	▲0.8	▲2.7%
入湯税	0.2	0.2		1.8%
事業所税	21.5	21.3	0.2	1.0%
<b>合計</b>	<b>635.2</b>	<b>634.4</b>	<b>0.8</b>	<b>0.1%</b>



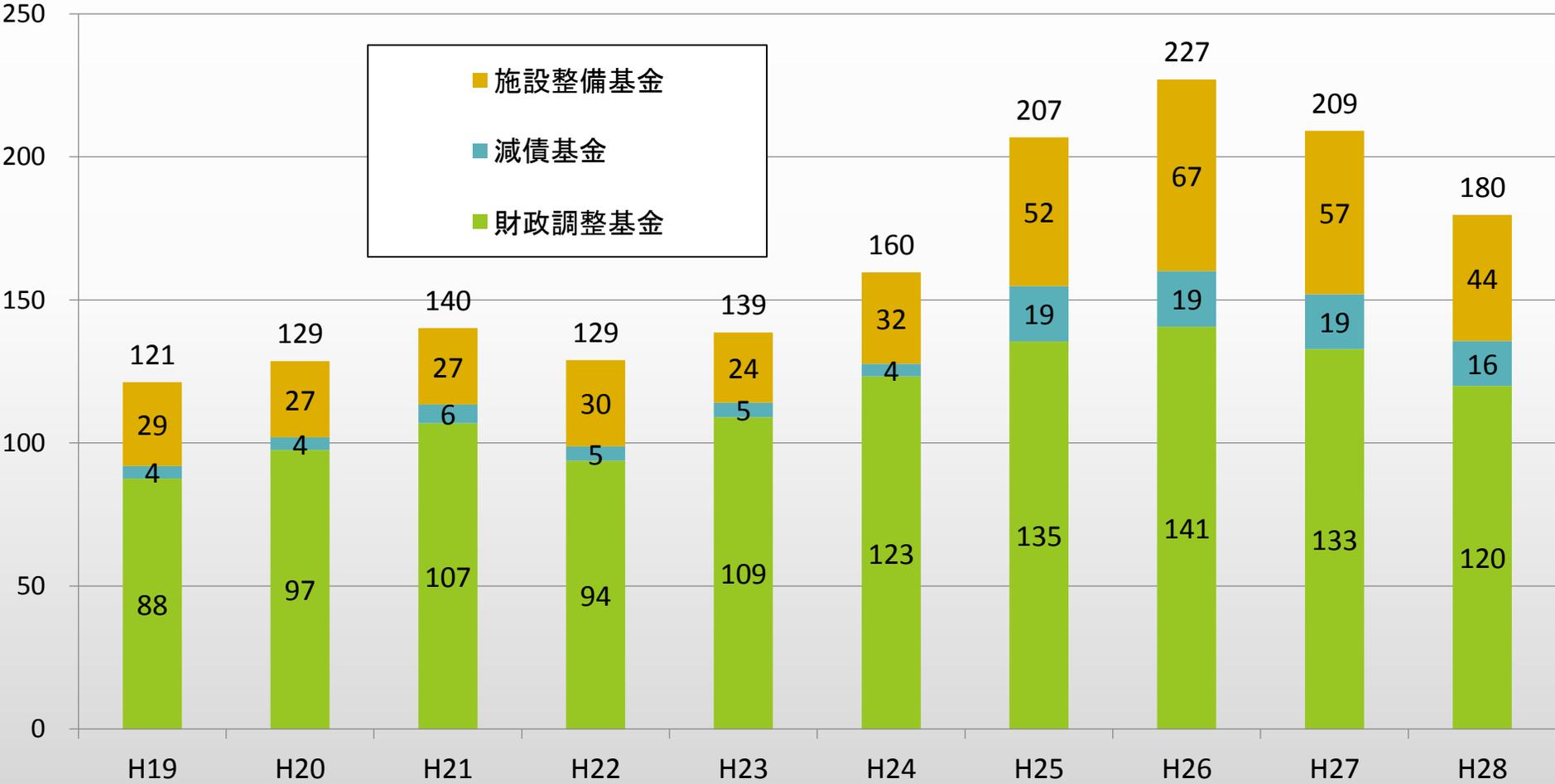
# VI. 市債残高の推移

- 市債残高は、前年度比で約81億円の増（+5.2%）となっており、そのうち臨時財政対策債が27億円の増（+3.9%）、臨時財政対策債を除く市債残高が約54億円の増（+6.2%）となっている。
- 臨時財政対策債を除いた市債残高は、合併年度（17年度）をピークに、その後減少傾向にあったが、27年度から2年連続で増加している。



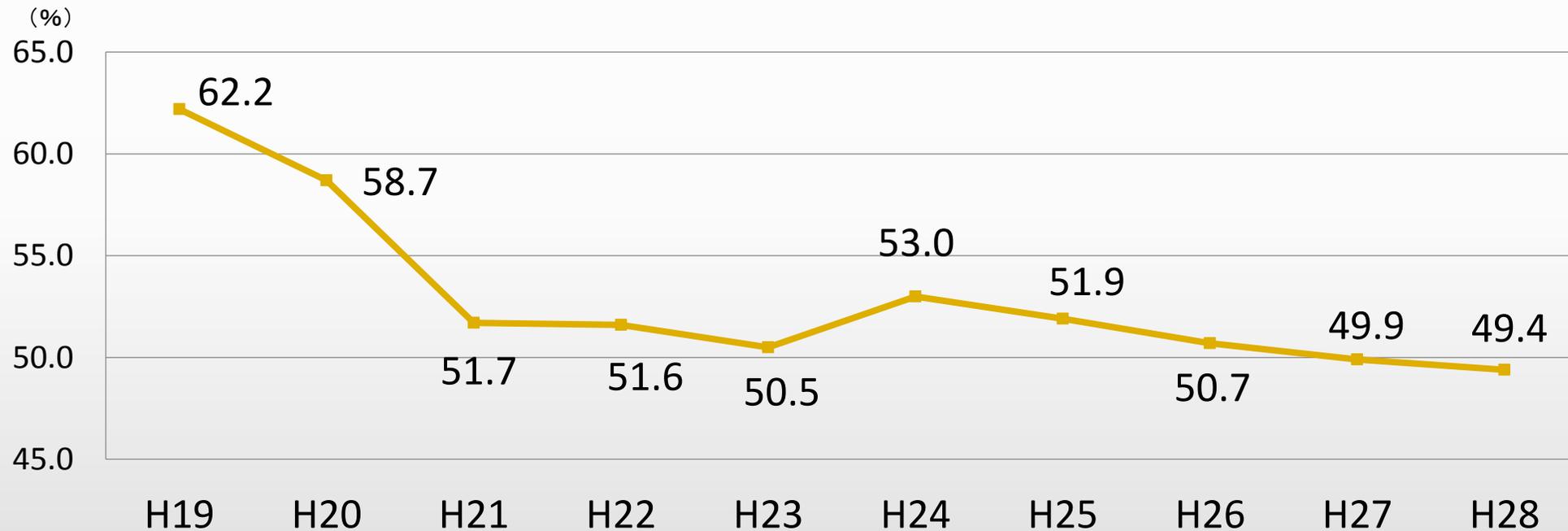
# VII. 基金現在高の推移

老朽市有施設の改修・修繕等のため、施設整備基金の取崩しの増などにより、基金現在高は前年度比で、約29億円の減（▲14.0%）となっている。



## VIII. 自主財源比率の推移

自主財源については、市税収入は微増（+0.8億円）したほか、施設整備基金や財政調整基金などの繰入金が増加（+23.6億円）したことにより、前年度比 約25億円の増（+3.0%）となった。また、依存財源については、建設事業が続いていることから市債が増加（+41億円）したことなどにより、前年度比 約41億円の増（+5.0%）となっており、自主財源比率は前年度比 0.5ポイントの減となっている。



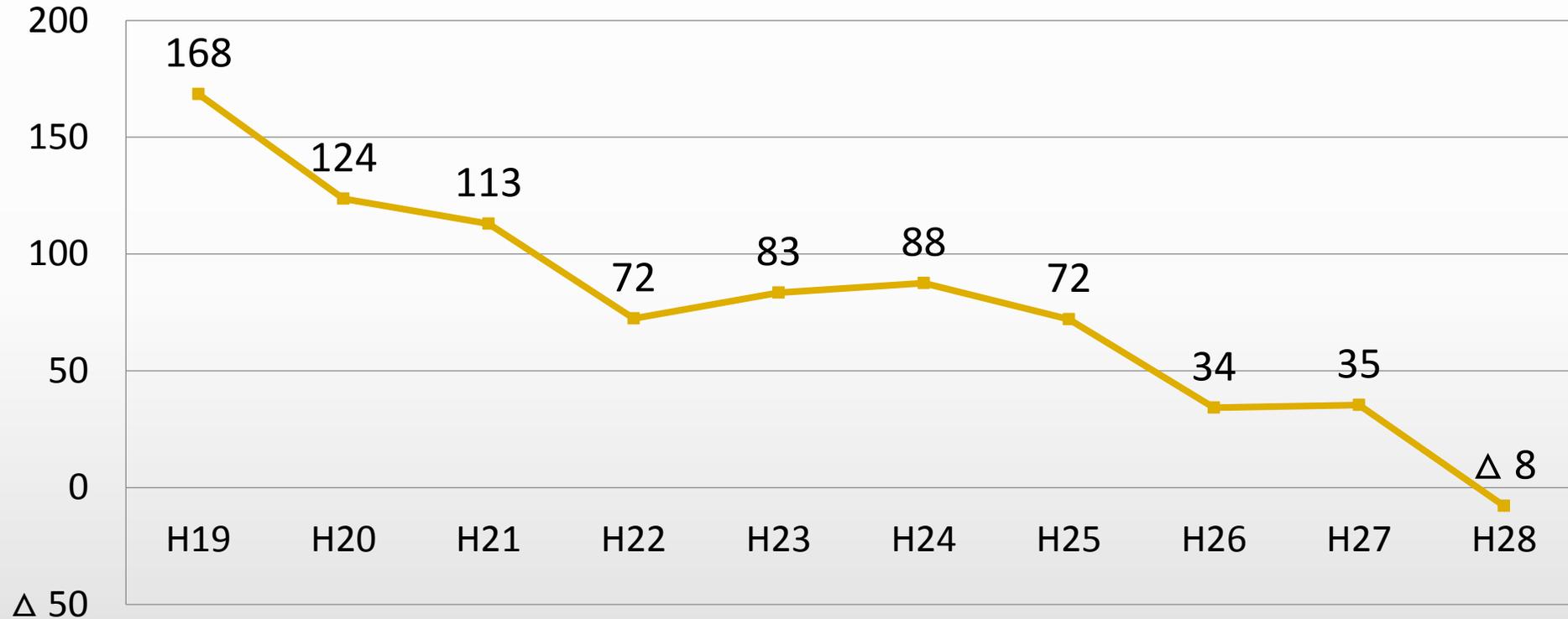
### ● 自主財源比率とは

歳入全体に占める自主的に収入できる財源（市税、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入）の比率。

## IX. プライマリーバランスの推移

全体としてはプライマリーバランスが悪化傾向にあり、28年度は13年ぶりに赤字（▲8億円）となっている。

(億円)

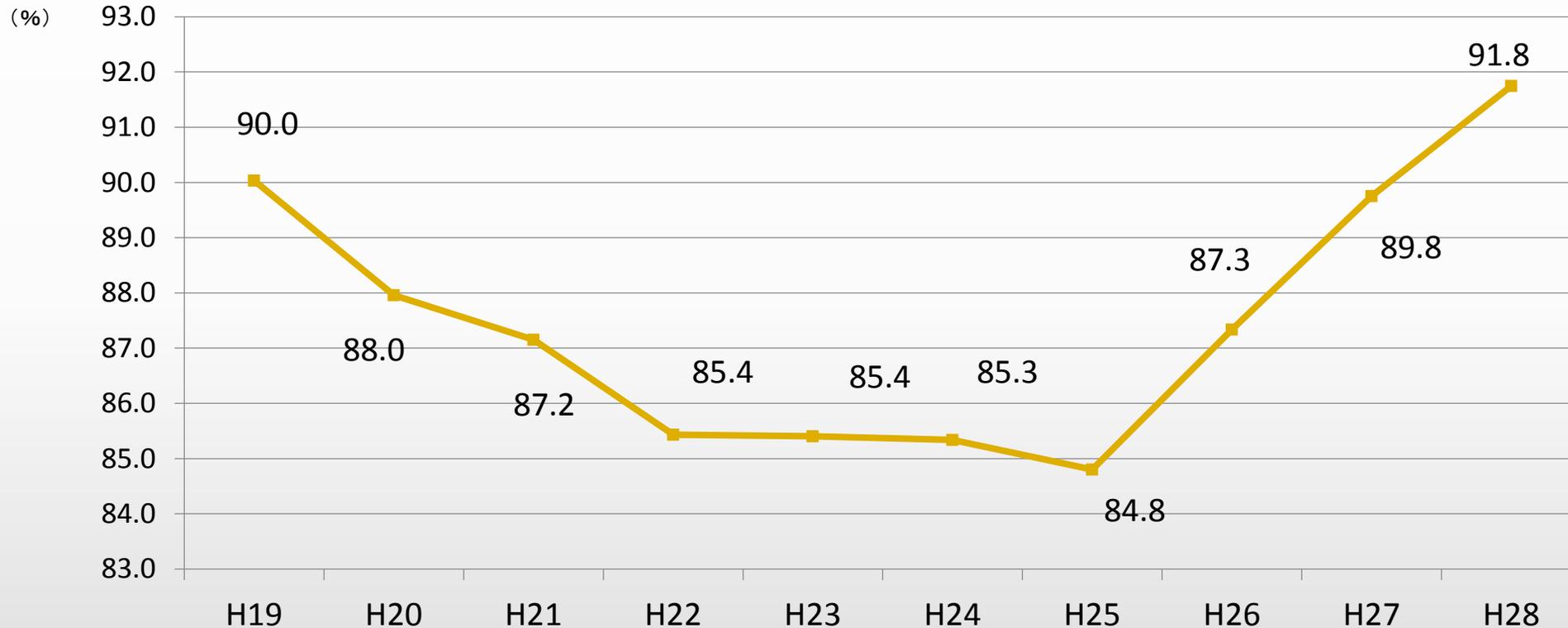


●プライマリーバランスとは

政策的な支出を新たな借金に頼らずに、その年度の税収等でまかなわれているかどうか、子どもや孫など次の世代に負担を先送りしているかどうかを示す指標。

## X. 経常収支比率の推移

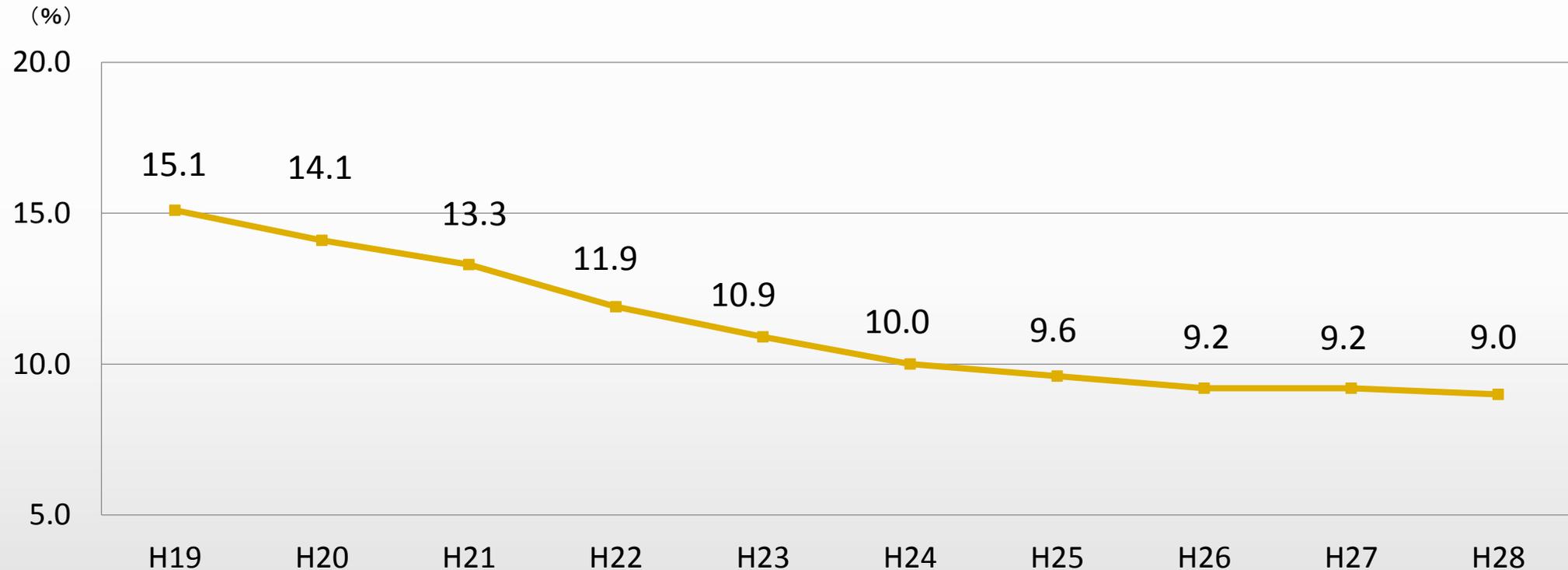
28年度では、経常経費は減少（▲6億円）したものの、地方消費税交付金などの経常一般財源も減少（▲28億円）したことにより、27年度と比較して2.0ポイント高くなっている。



- 経常収支比率とは  
地方公共団体の財政構造の弾力性を示す指標。  
比率が低いほど弾力性が大きく望ましい。

## XI. 実質公債費比率の推移

28年度では、標準財政規模の増、臨時財政対策債償還費等に係る基準財政需要額算入額の増により、27年度と比較して0.2ポイント改善している。



- 実質公債費比率とは  
地方公共団体における公債費による財政負担の度合いを判断する指標。  
18%以上になると、起債に当たり許可が必要となる。